

## 藤子不二雄 in 手塚治虫

理学部 2 回生 清水優

### ●はじめに

今から 70 年ほど前、漫画をこよなく愛する少年たちにとって衝撃的な事件が起きた。手塚治虫『新寶島』の出版である。その分量、諸表現において当時の漫画の枠を超えており、「まるで映画のようだ」と読者に言わしめたという話は多くの人の証言から明らかであり、再版がされなかったことも相まってのちには伝説として扱われることになる。この作品でベストセラーを叩き出した後も手塚は立て続けに長編漫画を出版し、その SF を根幹に据えた作品に当時の少年らは科学や未来都市への想像を膨らまさずにはいられなかった（特に『ロストワールド』『メトロポリス』『来るべき世界』は SF 三部作とも言われ、初期の手塚漫画を象徴する作品群である）。

藤本弘、安孫子素雄両少年がまさにこの時流にいたことはあまりにも有名であり、詳細は『まんが道』で描かれている。二人は手塚に憧れ、後年ペンネームを“足塚不二雄”として未来都市を舞台とした SF 長編『UTOPIA 最後の世界大戦』を出版するに至った。手塚が両少年に与えた衝撃は計り知れない。

一方手塚はというと、こちらもまた藤子不二雄の実力に感服していたようだ。藤子両氏が富山から手塚の自宅へ『ベン・ハー』の原稿を持ち込んだ際、手塚は「うまいじゃないか」と適当に言ったものの内心ドキドキして、しばらく自身の原稿を描けなくなったという。この話はテレビ番組で藤子両氏を前に本人の口から発せられた（この動画はまだ YouTube で見られるようである）。また、当時の『ベン・ハー』の原稿を大切に保管していたことから、手塚の受けた衝撃をうかがい知れる。

さてここからが本題であるが、全国の漫画家に神様とあがめられた手塚は実は他の漫画家のキャラや手法を、遊び感覚ではあるが、自作に取り入れることがある。これが気持ちの余裕によるものなのか、はたまた他漫画家の実力に対する嫉妬を紛らわすための、いわば気持ちの裏返しによる行動なのかは興味深い所であるが、ここでは触れないでおく。今回は藤子不二雄同好会の会誌ということで、手塚作品において藤子不二雄のキャラ、また藤子不二雄本人が登場するシーンをごく少数ではあるが紹介する。ただ、この記事では登場場面の紹介に終わってしまうことを先に謝りたい。両作家の表現技法における類似点の指摘や経年変化の考察も含めるつもりであったが、筆者の時間的都合上かなわなかった。これらについては来年以降に持ち越しとする。今回は肩の力を抜いて読んでもらいたい。

## ●トキワ荘物語

このタイトルは藤子ファンにも耳なじみがあるのではないだろうか。多くの漫画家が住んだトキワ荘の物語で、トキワ荘自身が語り部となった一風変わったノンフィクションである。手塚治虫の入居から多くの漫画家が住み始め、やがて彼らが世に出て行ったあと取り壊されるまでを描いている。もちろん藤子不二雄両氏も登場する。



図：二人の後ろ姿



図：寺田ヒロオ氏と会話する二人。

④氏の唇が気になる。

## ●ガチャボーイ一代記

ガチャボーイとは手塚の少年期のあだ名である。つまり、これは手塚治虫自身の一生を描いた自伝である。それと同時に手塚の漫画界への憂いも織り込まれた、いわばメタ漫画の一面も持つ。マンガ好きと自負する方にはぜひ読んでもらいたい。さて、この話にも少なくはあるが藤子不二雄が登場する。



図：多忙の手塚氏のもとへ来た二人。  
F氏は煙草をくわえている。



図：F氏は終始困り顔だが、この表情をよくしていたのだろうか。

## ●マコとルミとチイ

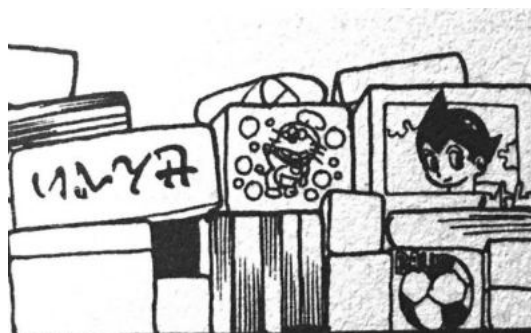
マコ、ルミ、チイは手塚の子供たちの名を指す（真<sup>まこと</sup>、るみ子<sup>るみこ</sup>、千以子<sup>ちいこ</sup>）。彼らの成長記を時に親目線で、時に子供目線で描いた作品である。そんな話に藤子不二雄が出ているのか？と思われるかもしれないが、今回は藤子不二雄のキャラクターである。特に遊び心で盛り込んだというわけではなく、実際の生活の中にあつたものとして描かれているようだ。ちなみにこの話の中で手塚が子供たちに読ませていた絵本に、手塚自身の作品と藤子不二雄の作品（『どらえもん』『オバケのQ太郎』）以外のものは見受けられなかった。それほど藤子不二雄の作品は当たり前のものとして受け入れられており、手塚自身もそれを認識していたことがわかる。下図の他にもドラえもんの絵本は多数登場する。



図：マコ（左）の持つ本にはドラえもん、  
ルミ（右）の前の本にはQ太郎が見える。



図：ドラえもんを読むルミ



図：なんだかヨレヨレのドラえもん



図：どんな事になっちゃったのだろうか

## ●おわりに

画像を列挙することに終始してしまったが、手塚に影響された藤本少年・安孫子少年が今度は手塚の生活に食い込み、最終的には彼の子供に影響を与える存在となった、この相互の絡み合いは見事のひとことではなかろうか。